

おうちの図工室・美術室

大切な人を守るマスク

対象学年 高校1年～高校3年

想定時間 最低3時間～

題材の内容（子どもたちへ語りかける言葉の例）

新型コロナウイルスの感染予防に向けて手洗い、うがい、マスクの着用が言われていますね。自分の体を守ることは、周りの人の健康を守ることもつながります。交通安全と同じで、みんなが気をつけていれば事故は防げると言えます。つまり、相手を大切にできる気持ちは自分も含めて、同じ社会に生きている人みんなの幸せにもつながると言えますね。

さて、あなたが誰かを大切に思う気持ちを、マスクを考えることでカタチにしてみましょう。

使うものは A4 コピー用紙 1 枚か、紙袋 1 枚か、ビニール袋 1 枚です。（そこに何か付け加えても構いません。）

あなたは大切な人が危険にさらされないようにするためにどうしたいと思いますか？どんな事ができるでしょうか？

そのためには、どんな形で、どんな方法がよいでしょうか。マスク不足である今だからこそ、あなたのデザイン力が必要です。

- 大切な人を守るためのマスクって、どんなもの？今あるものを調べて、深く考えてみよう！
- 誰に使ってもらいたいマスクをデザインするか？ターゲットを絞ろう！
- ワークシートやスケッチブックを使って、自由に発想を広げてみよう！
- 条件の中で考えてみてください。制限がある程、面白いかも？！
※色をつけたり、他の素材も必要だと思ったら使っても OK。自由に表現して OK。）
- デザインは、相手を思って行う行為です。完成したら、その人に渡して感想も聞いてみよう。最後に自分の振り返りをまとめて、ミッション終了です！
- 提出日は〇月〇日の登校日です。ワークシートとデザイン画を〇枚提出してください。

ANCS としてのねらい

自己を深める

共感性

深く見つめる

社会への広まり

共感性

多くの人が安全で健康な生活を送るために、同じような思いで過ごしていることや、誰かに貢献する活動を通して、他人に対する共感性を養います。

深く見つめる

身近な人のために、自分ができる事を考える機会となります。デザインする活動を通して、相手のことを深く考える事で人の存在と、自己とのかかわりについて考えます。

社会への広まり

身の回りのデザインされたものは、誰かが誰かの事を思ってできたものであることを理解することで、日常生活の中にあるモノから人の優しさやアイデアを感じ取る力を磨きます。

三観点

知識・技能

既存のマスクのデザインを調べたり、ハンカチ等の他の素材から研究したりして調査・研究することができる。

思考・判断・表現

自分以外の誰かを幸せにするために、想像力を膨らませ、素材や道具を活用しながらデザインを考えることができる。

主体的に学習に取り組む態度

ターゲットを絞ることで、目の前の誰かのために何かしたいという気持ちへと変容し、創意工夫されたデザインを考えられる。



おうちの図工室・美術室

活動の足あと・子どものことば

使用した材料・道具

A4 コピー用紙 1 枚
水彩絵の具



「 お母さんへのマスク 」

耳にかける
ところは
長さを
調節できる

表情が伝わり
にくいから
周りの人が
少しでも安心
できる色に

今日も
働きにいく
お母さん
のために

今日も働きにいくお母さんのためにマスクをつくりました。A4 のコピー用紙 1 枚からつくりました。ポイントは、耳にかけるところです。紙を帯状に切ってつけただけでは、かたい上に切れてしまう恐れがあることと、長さが調節できないので、使える人が限られてしまうという課題が出てきました。そこで、紙をくしゃくしゃにすることで柔らかさを出すことができ、そして、柔らかくした紙を寄り合わせて紐にし、マスクの 4 隅に 1 本ずつ取り付けました。端から出ている紐をクロスし、ねじり合わせて輪にすることで、長さを調節することができました。実際につけてみると、呼吸をしたときに、空気の通し道がないがためにマスクが顔に引っ付き、呼吸がとてもしにくかったです。売られているマスクは、形も素材も様々な工夫が詰まったものだなと実感しました。

次は、このマスクを使うお母さんの場面を考えました。お母さんはいろんな人と関わる仕事をしているので、顔のちょっとした表情も、相手の様子や気持ちを知るための大切な情報です。しかし、マスクをしているがために、顔の大半は隠されてしまいます。相手にとっても、表情が伝わりにくいので、不安な気持ちを少なからず与えてしまっているかもしれないと考えました。そこで、ピンクを基調とした、明るく淡くやさしい色にしました。このマスクをつけて、少しでも明るい気持ちで過ごせる空間づくりにつながってほしいです。